



世情、不確実性、IIC への期待



株式会社 IHI 常務執行役員
資源・エネルギー・環境事業領域 事業領域長

Ozawa Noriaki

小澤 典明

IIC の皆さん、こんにちは。日頃から IHI 資源・エネルギー・環境事業領域の事業展開に多大なご協力とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。IIC の皆さんには、例えばボイラでは耐圧部を中心とする非破壊検査、排ガス計測、原動機ガスタービンでは制御装置・運転監視装置、また LNG 貯蔵タンクでの非破壊検査など多岐にわたる事業でご協力をいただいています。検査・計測は、品質と安全を支える上でキーとなる重要な取り組みで、IIC の高度な検査・計測・制御技術に支えられてこそ、私達の領域はもとより IHI グループ全体の信頼が確保されているものと確信しています。今後とも、両者の密接な協力とシナジーによって、相互に力強く発展していきたいと思っています。

さて、原稿を執筆している今日は 7 月 25 日です。最高気温記念日で、1933 年に山形市で 40.8℃を記録したことに由来します（その後、熊谷市・

多治見市に越されますが…)。今年も暑い。北海道でさえ北見市が 24 日に 39.0℃を記録するなど異常な暑さです。皆さん、くれぐれも体調に気をつけていただきたいと思います…。このような気温のように、データを継続的に計測し、保管し、分析することで、物事の長期的な傾向がわかり、状態や環境の変化の推移を確認できます。地道で気を遣う作業ですが、こうした計測や検査の一つひとつが、物事の本質や環境の状態を見極めて客観的に認識する支えとなり、冷静な判断や行動の基礎となります。

不確実性が高まっています。政治経済的には、トランプ大統領の再登場による関税政策、安全保障政策などの国際社会に与える強烈なインパクト、国内でも参議院選挙の結果による政治の流動化、給付や減税といった財政支出の拡大と規律の喪失、国債暴落の懸念などなど。ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ガザ問題などは、残念なことでありますが一向に終わる気配がありません。世の中はますます浮遊し、確たるものがなくなっていく気がします。

それでも前に進まなければなりません。その際、何を根拠に、何を自らの視座にするか。それは一人ひとりで違ってくるかもしれません。そうであっても、大量に流れる情報に振り回されることなく、信頼できるデータに基づいて本質をしっかりと見つめること、客観的であること、そして冷静に判断・行動することは共通して求められることのように思います。

私達、IIC そして IHI の仕事は、そういう姿勢で日々臨むことが大事だろうなと感じています。